

小学校第1学年 図画工作科学習指導案

福岡市教育センター図画工作，美術科研究室

題材 みて、みて、おはなし

「くじら車にのって」

指導観

○ 本題材は、「くじら車にのって」のお話をもとにして、それまでの旅の様子や続きの様子を児童自身が思い浮かべ、想像を広げて描いていくことをねらいとしている。

本題材を子どもたちが取り組む上では、次のような価値があると考えられる。

- ① 「くじら車」の話が、冒険心を伴う内容で、児童の想像をふくらませる題材である。
- ② 「車」がくじらの形をした動く乗り物であり、多くの場面を設定することで、景色や色の発想を広げ、また細やかな線描表現が期待できる。
- ③ 自分や友達の思い浮かべたくじらの形や場所、色、表し方の違いやおもしろさに気付きながら見ることができる。

○ 本学級の児童達は、図画工作についての実態調査を行った結果、図工が「好き」と答えた児童が32人中28人と多い。しかし絵に表すことを「難しい」と答えた児童は12人と、領域の中で苦手と感じる人数が一番多い。

「図工は好きだけれども、絵に表すことに関しては難しい」という結果から、今後の教師の支援のあり方の工夫がより一層必要であると考えられる。

これまでに児童は「絵に表す」題材で、「すきなものなあに」「楽しかった運動会」「ウキウキ、ドキドキ」などの題材でパスを中心とした描画材で取り組んできた。これらの題材を通して、児童は「かきたいことが思いつかなかつたり思い通りの形や線が描けない」ことに困っている実態が見られた。

○ 本題材の指導と評価にあたっては、国語科「くじらぐも」のお話を事前に学習し、その後「くじら車にのって」の話に出合い、「車」に関する興味、関心を高めさせていく。

また本物の「くじらの形をした車」に出合うことにより、「その車でどこかへ旅をしたい」という意識をもたせて、想像を広げさせていきたい。

次に、物語や児童の絵の主題となる「くじらの車」を自分の思いに合った形や場所で走らせるために、場面や景色について言葉で表現させていき、想像を具体化させていく。さらに、主となる「くじら車」を画用紙上に表すにあたっては、車の配置や大きさ、動きなどで、児童の想像した周りの景色や部品などの体の内部構造と合う表現を見つけていく。また、運転は誰がしているのか、自分はどこにいるのか等関わる人物の想像も広げ、細かに描き加えていく。線描にあたっては、太細を表現できるペンなどで存在感のある表現や、景色などの細やかな表現を進めていく。彩色する際には、車の内部にはパスなどで児童の思いに合った表現を、周りの様子には水彩絵の具によるタンポやローラーによる広い世界の表現を進めていきたい。また、色についてはその場面に合う色を楽しみながら試して選ぶ表現を進めていく。

評価については、児童が思いを具体的に表現していくために、指導事項を整理し、評価規準を設定していく。一人ひとりの思いに合った表現ができるように、行動観察や対話、つぶやきなどから見取り、学習の手だてを考えていく。

目標

- お話をもとに「くじら車」を自分の表し方で形や場面、色を選んだりして楽しもうとする。 (造形への関心・意欲・態度)
- お話をもとに、車の形や動き、景色や場面、色について思いを広げることができる。 (発想や構想の能力)
- 表したい車の様子をパス、水彩絵の具、ペンなどの描画材で表す。 (創造的な技能)
- お互いの作品を楽しく見ることができる。 (鑑賞の能力)

表-1 「みて、みて、おはなし くじら車にのって」の指導事項

A表現(2) 表したいことを絵や立体に表したり、つくりたいものをつくったりする	
学習指導要領における指導事項	教科書による指導事項の明確化
<p>ア 表したいことを進んで見つけ、好きな色を選んだり、つくり方を考えるなどしながら思いのままに表すこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな形や色などを、自分で選び、試み、表すことができるような題材を選び指導すること。</li> <li>・繰り返し楽しみ、それを他の表現にも当てはめて試みる。</li> <li>・表したいことをもとにして、好きな色や使ってみたい材料などを選んだり、形をつくりながら、気に入った形や納得する形を選んだりする。</li> <li>・形や色などについての感覚や関心を大切にすること。</li> <li>・自分の好きな色や表したい色を自分で選び、自分の表し方で表すこと。</li> <li>・表したいことをもとに、形や色などを選び、つくったりつくり直したりしながら、思いのままに造形活動を進める。</li> <li>・児童が、手や体の働くままに活動を進め、自分の表したいことを見つけられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表したい場面が思い浮かべやすいお話の選定。</li> <li>・動物や乗り物など、児童の好きな登場人物。</li> <li>・「大きなかぶ」「ぞうさんの焼くクッキー」等、親しみやすいお話の選定や、「動物さん達がたどる一本の道」「お城に向かう鳥さんの引っ張る傘」等、お話の続きを絵に描いてみたくなるお話の選定。</li> <li>・ローラーでの太く長い暗色系の道の上から、細く明るい色のパスで線描の表現。</li> <li>・絵の具で群青の深い色をタンポで表現した上に黄色のタンポの色を重ね、夜の空の様子を表している。</li> <li>・夜の山の様子を、明るい黄色の絵の具で表現した後、細いペンで模様を描いたり薄目の緑色や赤い絵の具で線を描いて彩色している。</li> <li>・画用紙にペンなどで直接描くことの他に、形を切り取って貼るなどして児童が楽しく工夫できるようにする。</li> <li>・表したいことを輪郭線から描くばかりでなく、直接筆で体や形を描くことも取り入れる。</li> <li>・どのような様子の車を描きたいか、どのようなお話の世界が広がっているかお話をする時間を十分に確保して、児童の思いを理解する。</li> </ul>
<p>イ 表したいことに合わせて、粘土、厚紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類などの身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使い、絵や立体に表したり、つくりたいものをつくったりすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことや想像したことなど表したいことをもとに、形や色、材料などを自分で選び、それらを思いにそって試しながら表す。</li> <li>・形や色、材料などの置く位置を考え、大きさや長さを決め、偶然の面白さや楽しさを選びなどしながら、表したいことに近付けていくこと。</li> <li>・共用の水彩絵の具や安全な接着剤</li> <li>・クレヨン・パスなどの描画材とともに、児童がそれ以外に選んで表すことのできる用具。</li> <li>・児童によって、いろいろな表し方を組み合わせながら幅広い造形活動を進めること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいことをその様子に合わせてパスや粘土などを選んで描いたりつくったりする。</li> <li>・思いに合った画用紙の形や色、クレヨン・パス・ペンなどを自由に選べるようにする。色画用紙を使うと、全体の雰囲気が出しやすくなったり背景にかける時間も少なくなる場合もあり効果的である。</li> <li>・色画用紙を使うと全体の雰囲気が出しやすくなったりその色を生かすことができたりして効果的であるが、自分で絵の想像を具体化させていくには、さまざまな表現が可能な白地を選定する。</li> <li>・大筆やローラーなどの用具を選べるようにする。</li> <li>・色画用紙上に絵の具やパスによる同系色の重ねぬりを取り入れる。</li> <li>・絵の具での広い面ぬりの上から絵の具での筆による細い線や点による模様の線描き。</li> <li>・背景色はタンポを使った群青色と黄色の表現、筆による黄色の重ね塗り、筆による赤系色の線描等。</li> </ul>

## 「みて、みて、おはなし くじら車にのって」

## 指導と評価の計画（全7時間）

造形への関心・意欲・態度（関），発想や構想の能力（発），創造的な技能（創），鑑賞の能力（鑑）

	児童の活動	評価規準	学習活動における具体的評価規準	指導
お話に出会い、想像を広げる活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国語で学習した「くじらぐも」を想起させ、くじらに乗る楽しさを想起する。</li> <li>○ 「くじら車にのって」のお話を聞きアジア作家の作品「中古の車を改造したクジラの形の車」を観る。</li> <li>○ くじら車の内部はどのようになっていてどこを走っているのかを考え、言葉で書き表す。（2時間）</li> </ul>	<p>（関）興味深く話を聞いたり、作品を鑑賞したりして、くじらの形や大きさについての関心をもっている。</p> <p>（発）「くじら車」という想像的な乗り物の思いを広げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「くじら車にのって」の話を読み、くじらの車は誰が運転しているのか、自分たちはどこにいるのか、車の内部の様子（空、海、陸、宇宙等）、などの想像を広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい表現活動へつながるお話を準備しておく。</li> <li>・お話と車の具体物との出会いを考え、アジア美術作家の作品を紹介する活動提案。</li> </ul>
パスやペン、水彩絵の具で彩色する活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ くじらの車を描くために、くじら車の特徴を考え、線描きをする。</li> <li>・形、車の内部、走っている場所、道、周りの様子、上や下の様子など。</li> <li>・線描きはスケッチペンで行う。（本時1/4）</li> <li>○ 周りの様子を彩色する。</li> <li>・近くの様子はパスや色ペン等で細かく表現する。</li> <li>・遠くの様子は絵の具での背景やパスでの風景等を広く表現する。（4時間）</li> </ul>	<p>（発）くじら車の形状や大きさ、動き、どこを走っているかを具体的に想像することができる。</p> <p>（創）くじら車の形や大きさや形、周りの様子を画用紙上にペンで線描きをすることができる。</p> <p>（発）車の色や周りの様子を、具体的に思い浮かべる。</p> <p>（創）車の色や周りの様子を、絵の具やパス、カラーペン等の描画材で表すことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くじら車を表すために必要な人や景色を確かめ、想像を広げることができる。</li> <li>・画用紙のどの位置に配置すると自分の想像する周りの様子に合うくじら車が描けるか考えながら描くことができる。</li> <li>・ペンを使って太さや細さを考えながら描くことができる。</li> <li>・資料を活用しながら自分なりの表現を見つめながら描くことができる。</li> <li>・車や周りの景色など自分の想像の世界に近付けるような色で表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車の形を表すために墨の濃淡や線の太細を表現できるわりばしペンの材料提供。</li> <li>・想像を具体的な形に表すための「上下関係」「動き」「形」「大きさ」についての資料提示。</li> <li>・模様や人物の彩色にはパス、色ペン等の描画材で描き進める活動提案。</li> <li>・描きたい景色の様子に合わせた水彩絵の具や大筆、タンポ、ローラー等の材料提供。</li> </ul>
作品を鑑賞する活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の作品の「うまくいったところ」「がんばったところ」を伝え、また相手のよさにも気づきながら見る。（1時間）</li> </ul>	<p>（鑑）友達と自分の表した車の形の違いや場面の違いなど、お互いの表し方のよさに気づきながら見る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の作品を見直し、友達との違いや友達の表したかったことに気づき、楽しく見ることが出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの作品がすぐに見られる場の設定や、鑑賞したお互いのよさを発表できる活動提案。</li> </ul>

本時

平成17年10月4日（火）

本時目標

- お話の中で心に残ったくじら車の様子を思い浮かべ、楽しもうとする。  
(造形への関心・意欲・態度)
- くじら車の形状や大きさ、動き、どこを走っているかを具体的に想像することができる。  
(発想や構想の能力)
- くじら車の大きさや形、周りの様子を画用紙上にペンで線描きをすることができる。  
(創造的な技能)
- 自分や友達の作品の形、表し方のちがいやおもしろさについて気付きながら見る。  
(鑑賞の能力)

準備するもの

- 画用紙
- わりばしペン、墨
- 新聞紙
- ヒント資料

本時の指導と評価の考え方

本時は、児童が前時までに想像していた「くじら車がどこでだれと走っているのか、周りの景色や体の内部はどうなっているのか」について、具体的な形に線描をする活動である。

まずはじめに、前時までに考えた自分の「くじら車」の特徴を想起し、車の形、走っている場所、お腹の中身、自分たちの様子、向かっている上下関係や周りの風景の想像を想起させる。

次に、画用紙上に線描きを進めていくために、児童はまずくじらの車を描き、形を具体化させていく。車の形の線描きにあたっては、くじら車の「形」「上下関係」「動き」「大きさ」についての資料を提示し、自分の思いに合った形を確かめ、実際に描き始めるためのヒントとする。くじら車そのものは、どのような形をしているのかを想像した児童は、画用紙上のどのあ

たりに車を配置させれば周りの景色を表現できるのか、上下関係を考えて描き進めてさせていく。また、走っているのはどこなのか、どこに向かっているのかを表すために、尾の部分の動きを出し、行きたい方向を選んで進ませる動きを出していきたい。さらに、画用紙にくじら車がどのくらいの大きさを占めれば自分の思いに合った景色や体の内部の部品が表せるのかを確かめさせていく。体の内部の世界を広げたい児童については、先に内部を描き、後で周りの体を描き加えていくことができるように言葉かけや資料提示をしておく。想像が具体化しにくい児童には、くじらの形のいくつかの大きさの用紙を提示して、操作できる場を設定する。

車の形や、内部構造を描き進められた児童は、周りの様子も想像しながら描き進める活動を進めていく。その際、景色や空の様子など、好きな模様を楽しんで描き進められるよう、前時に考えていた景色を伝えて言葉かけをしていく。

最後に、本時の鑑賞の活動を設け、お互いの作品を見合っ、がんばったところやおもしろくできたところを相手に伝える。自分や相手の作品を楽しく見る時間とする。

本時では、児童の活動や作品をもとに、対話や鑑賞の時間の言葉かけによる支援を行っていくが、ふり返りプリントを用いて、児童の表した思いやヒント資料の有効性を見取り、次時に学習意欲をつなぐための指導を計画していく。

## 本時の指導と評価

学習活動と内容	学習活動における具体的評価規準	指導（活動提案・材料提供など）
<p>1, くじらの話を聞き, 前時までの活動を想起する。</p> <p>(1) 「くじら車にのって」のお話を聞く。</p> <p>(2) 前時までの想起をし, 描きたくじら車の特徴について確かめる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・表したい車の様子を思い返すために, 「くじら車にのって」のお話を読み聞かせする。</li> <li>・表したい「くじら車」の姿を想起させるために, 場面や様子についての言葉を見直す。</li> </ul>
<p>2, くじらの車の具体的な形や配置, 大きさなどを想像する。</p> <p>(1) 「くじら車」の資料を見て, 印象の違いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上下関係の比較</li> <li>・描く順序について</li> <li>・動きの比較</li> <li>・大きさの比較</li> </ul> <p>(2) 本時めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>くじら車のおはなしをきいて, どのような車がどをはしっているのか, かていこう。</p> </div> <p>3, くじらの車の形や内部の様子を線描きする。</p> <p>(1) くじら車が走っている形, 車の表情, 運転手, 部品などを描き進める。</p> <p>(2) 付け加えたい車の飾りや人物, 周りの様子を描く。</p>	<p>(発)</p> <p>○ くじら車の形状や大きさ, 動き, どこを走っているか, その場面を具体的な想像をふくらませることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車を表すために必要な人や景色を確かめ, 自分たちの様子や場所を思い付くことができる。</li> </ul> <p>(創)</p> <p>○ くじら車の配置を決め, 動きや大きさを想像しながら画用紙上にペンで線描きをすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画用紙のどの方向に向かって配置すると自分の想像する周りの様子に合うくじら車が描けるか考えながら描くことができる。</li> <li>・わりばしペンを使って太さや細さを考えながら描くことができる。</li> <li>・資料を活用しながら自分なりの表現を見つけながら描くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くじら車を具体的に表した資料の提示。</li> <li>・形のヒント資料提示。</li> <li>・上下関係を表す資料提示。</li> <li>・描く順序や内部構造の違いを示す資料提示。</li> <li>・動きを表す資料提示。</li> <li>・大きさの違いを表す資料提示。</li> <li>・くじら車の形を線の濃さや太さなどの面白さを出しながら表せるペンの材料提供。</li> <li>・わりばしペンに慣れるための, 試しの場の設定。</li> <li>・活動が停滞している児童には, 対話によってその子がどのような様子の車を描きたいのかを対話により見いだしていく。</li> <li>・具体的にくじら車の型で操作をし, 思いに合った形や大きさなどに近づけていく活動の場の設定。</li> </ul>
<p>4, できたものをみたり, がんばったことや楽しかったことを話したりする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達の車の違いやよいところ, 面白いところに気付くようにするために, お互いの作品が見られるように掲示する。</li> <li>・学習プリントにて, 本時の資料の有効性を見取る。</li> </ul>